

今朝も皆さまとともに主を礼拝できます幸いに感謝いたします。先主日はペンテコステの礼拝で、聖霊が私たちのところに降ってきてくださった恵みとともに味わいました。聖霊なる神さまからの助けと励まし、平安が続けて皆さまに豊かにありますよう、お祈りしています。

今朝もルカの福音書を通してともにみことばに聞いて参りたいと思います。これまで、3章の前半に記される、バプテスマのヨハネと呼ばれる人物の働きについて見てきました。このバプテスマのヨハネの働きは、4つの福音書全てに記されています。ヨハネについて多くのことが語られていますが、四つの福音書の記述が一貫して教えていること。その一つは、ヨハネは救い主ではないということです。ある意味当然のことですが、ヨハネは自分は救い主ではないと証ししてこの地を歩んだ。救い主イエスさまを指し示す存在として、この地での働きをなしたのがヨハネでした。私は救い主ではない。イエスさまこそ、私たちを罪から救ってくださるお方である。それをヨハネは伝えていったのです。今朝はこのイエスさまを指し示すヨハネの生き方に目を留めつつ、私たちイエスさまを信じる者の歩みについて教えられていきたいと思います。

私よりも力のある方

15節をお読みします。

人々はキリストを待ち望んでいたので、みなヨハネのことを、もしかするとこの方がキリストではないか、と心の中で考えていた。

人々はキリスト、救い主を待ち望んでいた。これはルカの福音書がこれまで繰り返し私たちに教えてきたことです。当時の人々はイスラエルの民を救う救い主メシヤが到来することを待っていました。それは旧約聖書に記されている希望の約束でもあります。マラキ書3章1節にこうあります。

見よ、わたしはわたしの使いを遣わす。彼は、わたしの前に道を備える。あなたがたが尋ね求めている主が、突然、その神殿に来る。あなたがたが望んでいる契約の使者が、見よ、彼が来る。——万軍の主は言われる。

主がその神殿に来る。この箇所を含めて、実に多くのメシヤ預言が旧約聖書には記されています。こういう箇所を通して当時の人たちは、やがてくる救い主を待ち望んでいました。特にこの時は、敵国であるローマの支配から自分たちを解放する存在を人々は待ち望んでいたという風に言われます。そんな中登場したヨハネ。人々に神さまの裁きや罪の問題を語り、神さまへの悔い改めのバプテスマを授けるヨハネを見て、当時の人々は期待をするわけです。もしかするとこの人が待ち望んでいるキリストではないか。この人が、聖書の約束している救い主ではないかと人々は思ったということです。

そのような状況でヨハネは人々に語ります。16節。

そこでヨハネは皆に向かって言った。「私は水でああなたがたにバプテスマを授けています。しかし、私よりも力のある方が来られます。私はその方の履き物のひもを解く資格ありません。その方は聖霊と火で、あなたがたにバプテスマを授けられます。」

ヨハネは人々の心の中にある考えや期待を打ち消して、自分はキリストではないとここで語っています。「私よりも力のある方が来られます」そう言って、自分は救い主ではないこと、自分はやがて来られる救い主のために仕えるしもべに過ぎないことを彼は語る。人々が自分に対して抱いている期待をはっきりと打ち消し、自分より力のある方、自分よりも素晴らしいお方が到来することを予告する。そんなヨハネの姿です。ヨハネは「私はその方の履き物のひもを解く資格ありません」と語ります。履き物のひもを解く仕事というのは、当時の奴隷でもやらない、本当に卑しい仕事と言われていたものだそうです。奴隷でもやらない仕事をすることも許されないほどに、イエスさまと自分の間には大きな差がある。イエスさまの前に自分は本当に卑しいしもべなのだ。自分とは比べ物にならないほどにイエスさまは素晴らしいお方なのだということをヨハネは告白しているのです。

バプテスマのヨハネが教える私たちの生き方。それは、イエスさまの力を認め、イエスさまの前にひざまづく生き方。私にはこのお方の履き物のひもを解く資格もない。イエスさまの前に自分は真に小さな存在であることを認め告白する生き方。それが私たちイエスさまにある者たちの生き方である。そのことを今朝私たちはともに覚えたいと思います。

私よりも力のある方が来られる。私よりもイエスさまは力のあるお方だ。これは諦めや、投げやりな言葉、失望の言葉ではありません。むしろイエスさまに期待をしイエスさまへの希望を告白する言葉です。私たちの弱さや足りなさ、至らなさを超えて働いてくださるお方がおられること。イエスさまにこそ全ての力があり、解決がある。それを信じる幸いに私たちは生かされているのです。私よりも力のある方が来られる。私ではなく、イエスさまに希望が

ある。イエスさまにある確かな望みを私たちは抱き、力あるイエスさまに信頼して歩む歩みを進めてまいりたいと思います。

私は先週、自分の弱さを本当に自覚する経験をしました。自分の知恵のなさや愚かさ、不注意を身に沁みて味わい、またそう言った状況に簡単に平安をなくし動揺し右往左往している自分の弱さを痛感する出来事でもありました。そんな出来事を経験しながら、私自身改めて今朝のみことばと向き合うことが許され、私よりも力のあるお方を信じる恵みを覚えました。力のあるイエスさまを見上げて生きる幸い。自分の力や自分の正しさではなく、イエスさまに望みを置いて生きることが私には許されているのだと改めて教えられる、そんな一週間であったと思っています。

自分の力や自分自身に目を向けるなら、私には望みはありません。私はどこまでも弱く愚かで、罪深い者である。けれども、イエスさまに目を向ける時、イエスさまを見上げて生きる時、このお方には計り知れない力があること。力強いお方、王の王、主の主なるお方が今日私とともにいてくださること。このお方に愛されこのお方を愛して生きる真の幸いと平安が私には与えられている。そのことを私たちは覚えて、どんな時もイエスさまに希望を抱いて生きる者とされていきたいのです。

イエスさまを証しする生き方

そしてヨハネの姿が教える生き方は、自分のうちにあるこの望み、力あるイエスさまを告白し人々に証しする生き方です。ヨハネは人々の期待を知り、それに応えるのは自分ではないということをはっきりと告白しました。私たちキリスト者の歩みは、人の期待に自分で応えることではありません。自分ではなく力あるイエスさまを指し示すことが私たちイエスさまを信じる者たち、教会の生き方である。そのことを私たちは大切なこととして覚えたいのです。使徒の働きに印象的なエピソードが記されています。イエスさまの弟子のペテロとヨハネの働きですが、ちょうど先主日覚え祝ったペンテコステのすぐ後の出来事です。使徒の働き3章1-8節。

ペテロとヨハネは、午後三時の祈りの時間に宮に上って行った。すると、生まれつき足の不自由な人が運ばれて来た。この人は、宮に入る人たちから施しを求めるために、毎日「美しの門」と呼ばれる宮の門に置いてもらっていた。彼は、ペテロとヨハネが宮に入ろうとするのを見て、施しを求めた。ペテロは、ヨハネとともにその人を見つめて、「私たちを見なさい」と言った。

彼は何かもらえると期待して、二人に目を注いだ。すると、ペテロは言った。「金銀は私にはない。しかし、私にあるものをあげよう。ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」

そして彼の右手を取って立たせた。するとたちまち、彼の足とくるぶしが強くなり、躍り上がって立ち、歩き出した。そして、歩いたり飛び跳ねたりしながら、神を賛美しつつ二人と一緒に宮に入って行った。

イエスさまの弟子のペテロは足の不自由な人に「金銀は私にはない」と語りました。「私たちを見なさい」と言うておきながら、金銀はないと語る。この人が彼らに対して抱いた、何ももらえるかもという期待に私たちは応えることはできない。そうペテロははっきりと語ったわけです。聖霊の降臨を受け聖霊に満たされたペテロとヨハネそして教会は、自分たちの力で人々の必要や期待に応えたものではありませんでした。救い主イエスさまを指し示し、そのイエスさまの恵みを分かち合うこと。それが彼らの宣教の働きだったのです。私はあなたの期待に応えることができない。そうはっきり語った上でペテロは「ナザレのイエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい」と語ります。この人が期待していたこと以上のこと、この人の本当の必要に応じてくださるイエスさまを彼らは指し示した。自分には富も力もない。しかし本当の力の源、恵みの源をペテロは指し示しその恵みを分かち合った。ここに私たち信仰者の生き方、教会の宣教の姿勢がみことばを通して示されています。

私たちはついつい、人の期待や願いに自分で応えたい。応えようとして生きている。そのように言えるのではないのでしょうか。良い人でなければ、良い親でなければ、良い子ども、良い夫・良い妻でなければ、良いクリスチャンでなければ。そんな風に自分で自分を追い詰め頑張りが過ぎてしまうこと、人からの期待に応えられない自分に落ち込んでしまうことが私たちにはあります。しかし聖書に出てくる信仰者たちを見る時「金銀は私にはない」とはっきりと語る姿、私は弱いと告白する姿や「私はキリスト、救い主ではない」と素直に認め告白する姿を私たちは知ることができます。もちろん遣わされた場で正しく良い生き方をすること、人に仕えることはとても大切なことです。しかしそこには当然限界がある。私は神さまではないし、イエスさまでもない。人を救ったり人の期待に応えたりすることは私にはできない。しかし、私よりも力のある方、イエスさまがおられる。このイエスさまを指し示しこのお方に希望を告白すること。それこそが私たちが福音を証しして生きるということなのです。私たちは弱く小さな者だけ

れどもイエスさまは違う。私は弱く愛のない者だけれども、イエスさまは強く、愛と恵みに満ちておられる。このお方に信頼しより頼み、このお方を主と告白して生きる幸い。この恵みは全ての人に、あなたに差し出されている。私もあなたもイエスさまに愛されている。そのことを告白し証しし続ける私たち、イエスさまの愛と恵み、シャロームを分かち合う八千代聖書教会とされたいと思います。

しかし、私よりも力のある方が来られます。

今週も、力のあるお方、愛と恵みに満ちたイエスさまが私たちとあなたとともにおられます。どんな時も変わらず私たちを愛しともにいて、支え守り導いてくださるイエスさまの恵みに信頼し、このお方の真実を告白し証しして生きる。そのような私たちとして、今日もここから遣わされてまいりましょう。

お祈りをいたします。

「天のお父さま。みことばをありがとうございます。「私よりも力のある方が来られます」私たちを愛し、いつもともにいてくださるイエスさまを信じて生きる幸い。自分の強さではなく、力強いイエスさまの恵みに希望を抱いて生きる幸いを私たちにお与えくださりありがとうございます。私たちは時に人の期待や願いに応えることに思いを向け、そこに応えられない自分の弱さに落ち込んだり失望したりしてしまう小さな者です。今も生きて私とともにおられるイエスさまにこそ希望があること。私ではなく、イエスさまの愛と恵みを証して生きることができるよう、聖霊の力により私たちを導き支えてください。あなたの恵みに心から感謝し、主イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。アーメン。」